

ICT を使用した絵本を取り入れた小学校 4 年生の外国語活動

執行 智子*1・カレイラ松崎順子*2・

Email: shigyotomoko@gmail.com

*1: 東京未来大学こども心理学部非常勤

*2: 東京経済大学法学部准教授

◎Key Words ICT を使用した絵本, 小学校 4 年生の外国語活動, 語彙力

1. はじめに

日本の小学校では2011年より5~6年生において外国語活動が全面実施となった。今回の実施では音声中心で文字は補助的に扱うこととなっている。しかしながら、永井・佐久間⁽¹⁾では、高学年の児童においては、外国語活動を通して英語の音声をとらえることのむずかしさを体験しており、特に学校のみで英語を学習している児童は、英語特有の音を捉えにくく母語である日本語の音に置き換えてとらえているようだと報告している。英語の音が聞き取りにくければ、音声中心の外国語活動で語彙を拾い出すことは難しいと言えよう。また、リスニング力と英語（外国語）活動に対する心理要因の関係について佐久間⁽²⁾は、リスニング力をつけると音声に敏感になる上、英語文化への関心が高まり言語の特徴を捉え、」取り組む姿勢が高くなると報告している。さらに Sakuma⁽³⁾では、リスニング力において英語（外国語）活動の実施時間数の多い学校の方が少ない学校より有意に差があったと報告している。

近年 ICT を使った絵本を読むことが注目されている。ICT を使った絵本は、選択した文を聞くことができたり、同じ語を繰り返し聞くことができたり、またスペルを一つ一つ読み上げるのを聞くことができたりする。なぜこのような絵本が注目されているのであろうか。ICT を使った絵本は絵とそれを表す言葉（音声）を同時に聞くことができるので、文字を読めない子供でも一人で絵本を読み楽しむことができるからである(Jones & Brown⁽⁴⁾)。また、言語学習に不可欠である音声インプットを非常に多く提供することができるからである。本研究ではこのような ICT を使った絵本を英語の接触量の少ない EFL の環境にある日本の小学校中学年の外国語活動に効果的に導入する方法を探る。

2. 本研究

2.1 研究の目的

本研究の目的は、ICT 技術を取り入れた Leapfrog 社の英語の絵本が小学校 4 年生の外国語活動においてどのように使用することができるかの可能性を探ることにある。本研究では問題解決を伴う協同学習の教材として ICT を使用した同社の英語の絵本を使用する可能性と、児童が好きな教材を読む自習教材として使用する可能性の比較を行った。なお、以下のようなリサーチクエスチョンを設定した。

1. ICT を使用した絵本を使った活動は児童の英語を読むことに対する意欲を高めることができたであろうか。

2. ICT を使用した絵本を使った活動は児童の語彙力を高めることができたであろうか。

2.2 研究方法

2.2.1 研究参加者

参加者は、新宿区立愛日小学校平成 23 年度 4 年生 24 名と、同校平成 24 年度 4 年生 27 名である。同校外国語活動時数は、1~2 年生は年間各 10 時間、3~4 年生は 15 時間、5~6 年生は年間 35 時間である。全時間において、担任と外国語活動を担当している非常勤講師と外国語指導助手 (ALT) が配置されている。

2.2.2 実験内容

<グループで問題解決をする活動>

2011 年 10 月から 12 月までの計 4 回の外国語活動に ICT を使用した絵本を読んで問題解決をする活動を行った。1 時間のうち、前半には後半の活動に必要な語彙を導入、後半はグループ (3~4 人) で ICT を使用した絵本を読み課題解決をする活動をした。使用する絵本は、各グループに 1 冊ずつ、また本にタッチすると音が出るペンを一人に 1 本ずつ配布した。絵本を使用した合計時間は 80 分程度である。

<個人で自由に読む活動>

2013 年 2 月に計 2 回の外国語活動に自分の好きな ICT を使用した絵本を選んで読む活動を行った。絵本を使用した合計時間は約 80 分程度である。

使用した絵本は、付属のペンで英文をタッチすると、それを読み上げたり、人物や動物の絵をタッチすると英語を話したり鳴き声が流れたりする。また、背景をタッチすると風の音や歌が流れるようになっている。さらに、絵本と読み手が相互交流できるようになっている。例えば、*Curious George Color Fun* では、George の絵をタッチすると “Can you find a red balloon?” と指示が流れ、次に赤いバケツをタッチすると、“Red balloon. That’s right.” というフィードバックが流れて来る。このやりとりの中で読み手は達成感を味わうことができる。また、指示通りにできなくても、タッチしたものの名前を英語で読み上げたり音楽が流れたりするので、楽しさが減少するわけではない。

2.2.3 データ収集

ICT を使用した絵本を読んでグループで問題解決をする活動と ICT を使用した絵本を自由に読む活動の事前・事後に、質問紙によるアンケートを実施した。アンケートの内容は事前事後に共に同様で、英語で読むこと対

する態度・意欲に関する3問(項目1~項目3)と絵本に含まれている英語の語彙に関する10問(項目4~項目13)である。項目1から項目3は、「はい」(4点)から「いいえ」(1点)までの4つの選択肢のうちそうであると思われるものを選ぶ選択式である。また、項目4から項目13は、「はい」(1点)と「いいえ」(0点)のどちらかを選択する方式である。

3. 結果および考察

＜グループで問題解決をする活動＞を行った児童と＜個人で自由に読む活動＞を行った児童の読むことに対する意欲や態度が事前・事後においてどのように変化したかを調べるために、項目1から項目3について対応のあるt検定を行った。その結果、＜グループで問題解決をする活動＞を行った児童において有意な差は見られなかった。一方＜個人で自由に読む活動＞を行った児童において項目1, $t(26)=2.29, p<.05$ と項目3, $t(26)=3.05, p<.05$ において事後の方が有意に高い得点を示していた。(表1)

表1 英語を読むことに対する態度や意欲

		事前		事後		t 値
		平均	SD	平均	SD	
項目1	問題解決	2.40	.96	2.48	1.36	.46
	自由活動	3.22	.75	3.46	.65	2.29*
項目2	問題解決	3.32	.85	3.32	1.18	.47
	自由活動	3.67	.55	3.81	.40	1.44
項目3	問題解決	2.28	1.06	2.68	1.14	1.84
	自由活動	3.26	.86	3.67	.55	3.05*

* $p<.05$

また＜グループで問題解決をする活動＞を行った児童と＜個人で自由に読む活動＞を行った児童の絵本に出てくる語彙について事前・事後においてどのように変化したかを調べるため、項目4から項目13の各項目において対応のあるt検定を行った。その結果＜グループで問題解決をする活動＞を行った児童において、項目4, $t(24)=2.82, p<.05$, 項目5, $t(24)=2.59, p<.05$, 項目6, $t(24)=4.00, p<.05$, 項目8, $t(24)=4.34, p<.05$, 項目9, $t(24)=3.77, p<.05$, 項目10, $t(24)=3.67, p<.05$, 項目11, $t(24)=4.71, p<.05$ および項目13, $t(24)=4.41, p<.05$ において事後のほうが有意に高い得点を示していた。＜個人で自由に読む活動＞では、項目4, $t(26)=2.43, p<.05$, 項目5, $t(26)=5.70, p<.05$, 項目6, $t(26)=2.43, p<.05$, 項目8, $t(26)=3.61, p<.05$, 項目9, $t(26)=2.79, p<.05$, 項目10, $t(26)=5.29, p<.05$, 項目11, $t(26)=5.29, p<.05$, 項目12, $t(26)=4.91, p<.05$ および項目13, $t(24)=4.41, p<.05$ において事後のほうが有意に高い得点を示していた。(表2)

以上の結果より、ICTを使った絵本を個人で自由に読む活動は、児童に英語で読むことに興味を持たせたり、英語で読むことは楽しいと思わせたとと言える。しかしながら、ICTを使った絵本をグループで問題解決をする活動は、児童の英語で読むことに対する意欲や態度を高くしたとは言えないと思われる。さらに、絵本に出てくる語彙に関して、どちらの活動も児童の語彙力を明らかに伸ばしたと言える。特に個人で自由に読む活動は、普段児童たちが学校の外国語活動ではあまり接触しないと思

われる語彙をも多くの児童が「言える」と述べていた。

表2 語彙に関する項目

		事前		事後		t 値
		平均	SD	平均	SD	
項目4	問題解決	.40	.50	.76	.06	2.82*
	自由活動	.78	.42	.96	.19	2.43*
項目5	問題解決	.04	.20	.32	.48	2.59*
	自由活動	.33	.48	.89	.32	5.70*
項目6	問題解決	.60	.46	.68	.48	4.00*
	自由活動	.78	.42	.96	.19	2.43*
項目7	問題解決	.60	.50	.80	.41	2.00
	自由活動	.81	.40	.93	.27	1.80
項目8	問題解決	.08	.28	.52	.51	4.34*
	自由活動	.48	.51	.81	.40	3.61*
項目9	問題解決	.04	.20	.48	.51	3.77*
	自由活動	.48	.51	.81	.40	2.79*
項目10	問題解決	.24	.44	.60	.51	3.67*
	自由活動	.33	.48	.85	.36	5.29*
項目11	問題解決	.00	.00	.48	.51	4.71*
	自由活動	.22	.42	.81	.40	5.29*
項目12	問題解決	.08	.28	.28	.46	2.00
	自由活動	.07	.27	.56	.51	4.91*
項目13	問題解決	.36	.49	.80	.41	4.41*
	自由活動	.74	.45	.96	.19	2.73*

* $p<.05$

4. おわりに

小学校4年生の外国語活動においてICTを取り入れた英語の絵本を自習教材として使用した方が問題解決のための教材とするよりも児童の英語を読むことに対する意欲を高めたことがわかった。これは使用者がやり方を自分なりに工夫できるというICT技術の特性が自習教材に適していることを表している。またどちらの使用法も児童の語彙力を高めることができたが自習教材として使用した方がより高めることができたと言える。本研究結果からICTを取り入れた絵本が小学校外国語活動の自習教材として効果的な教材であることが示唆できるであろう。

参考文献

- (1)永井崇, 佐久間康之. 「外国語活動における児童の心理的特徴の分析と今後の課題: より良きカリキュラム作成に向けて」. 『福島大学総合教育センター紀要』第13号, 9-16, 2012. from <http://ir.lib.fukushima-u.ac.jp/dspace/bitstream/10270/3710/1/19-146.pdf>
- (2)佐久間康之. 「公立小学校低学年の英語活動がもたらすリスニング力および心理的要因への影響」. 『東北英語教育学会研究紀要』第29号, 1-15, 2009.
- (3)Sakuma, Y. Changes in listening ability and psychological factors influenced by elementary school English activities. *Annual Review of English Language Education in Japan* 20, 221-230, 2009.
- (4)Jones, T. and C., Brown. Reading engagement: A comparison between e-books and traditional print books in an elementary classroom. *International Journal of Instruction*. Vol. 4., No. 2 6-22, 2011. from <http://www.eric.ed.gov/PDFS/ED522678.pdf>